

## ◆◆◇◆ 第560回 薬事情報センター定例研修会 ◆◇◆◆

2024年9月14日

薬事情報センターだより 資料2 研修会概要、研修関連資料等 → <https://www.hiroyaku.jp/di/training/2846/>

## 2. 医療事故防止のための情報

- ◆ 薬局ヒヤリ・ハット情報事例報告（広島県薬剤師会） ……p 57 【薬事情報センター】
  - ・事例報告5 患者の妻から服薬拒否の相談を受け、薬剤変更提案を行うとともに嚥下機能低下に対するアプローチを行った
  - ・事例報告6 ロキソニンによる薬疹の疑いがある患者にロキソプロフェンが処方された  
（（公社）広島県薬剤師会「モバイルDI室」事業 2023.11～開始、県薬会誌、【会員専用ページ】）<https://www.hiroyaku.jp/di/files/>
- ◆ 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例 ……p 61 【(公財)日本医療機能評価機構】
  - ・2024年No.7 <http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>  
[https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharing\\_case\\_2024\\_07.pdf](https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharing_case_2024_07.pdf)
  - ・2024年No.8 [https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharing\\_case\\_2024\\_08.pdf](https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/pdf/sharing_case_2024_08.pdf)

## 3. 今月のトピックス

- ◆ “新しく”、“正しい”医薬品等情報の入手と提供（第30回） ……p 67 【薬事情報センター】
  - 予防接種・ワクチンのことを相談されたら～健康をサポート～  
～最新の医薬品・医療情報を電子的に入手、活用する～  
(県薬会誌 薬事情報センターのページ)  
・薬事情報センターのページ 【会員専用ページ】 <https://www.hiroyaku.jp/di/files/letter/>
- ◆ 肺炎球菌ワクチンについて ……p 74 【薬事情報センター】
  - (県薬会誌 お薬相談電話 事例集 No.149)  
・お薬相談電話事例集 【会員専用ページ】 <https://www.hiroyaku.jp/di/files/case/>



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2024年  
No.7  
事例1

調剤

## インスリン ペン型注入器の確認不足



### 事例

#### 【事例の詳細】

患者の処方が、前回、ヒューマログ注カートからインスリン リスプロBS注カートHU「サノフィ」に変更になったが、今回さらにインスリン リスプロBS注ソスター HU「サノフィ」に変更になった。薬剤師はカートリッジ製剤がプレフィルド製剤に変更になった理由を患者に確認した。患者は以前、ヒューマログ注カートをペン型注入器のヒューマペンサビオに装着して使用していたが、前回処方されたインスリン リスプロBS注カートHU「サノフィ」をヒューマペンサビオに装着したところ液漏れしたため、処方医に相談し、プレフィルド製剤に切り替えたことが判明した。薬剤師は、インスリン リスプロBS注カートHU「サノフィ」は、患者の所有するヒューマペンサビオとは不適合であることに気付いた。

#### 【背景・要因】

ヒューマログ注カートからインスリン リスプロBS注カートHU「サノフィ」に変更した際に、ペン型注入器をヒューマペンサビオからイタンゴに変更する必要があったが、医療機関から患者にイタンゴは提供されなかった。当薬局ではインスリン カートリッジ製剤を取り扱う機会が少なく、薬剤師はペン型注入器を変更する必要性を認識していなかった。患者は、ヒューマペンサビオにインスリン リスプロBS注カートHU「サノフィ」が正しく装着できるものと思い込んでいた。

#### 【薬局から報告された改善策】

インスリン カートリッジ製剤とペン型注入器は正しい組み合わせで使用する必要があるため、インスリン カートリッジ製剤が処方された際は、患者が所有しているペン型注入器と薬剤が正しい組み合わせであることを確認するよう、スタッフに周知した。



### その他の 情報

#### 製品の画像

	ヒューマログ注カート	インスリン リスプロBS注カートHU「サノフィ」
カートリッジ製剤		
ペン型注入器 (色違い有)	ヒューマペンサビオ (銀色) 	イタンゴ (ブラック) 
製造販売業者	日本イーライリリー株式会社	サノフィ株式会社

日本イーライリリー株式会社、サノフィ株式会社のホームページより引用 (2024年5月27日参照)



### 事例の ポイント

- インスリン カートリッジ製剤を患者に交付する際、薬剤師は患者の所有するペン型注入器と薬剤が正しい組み合わせであることを確認することが重要である。
- インスリン リスプロBS注カートHU「サノフィ」は、ヒューマログ注カートのバイオ後続品 (バイオシミラー) であるが、製造販売業者が異なるため、適合するペン型注入器は異なることに注意が必要である。
- 2021年10月に製薬企業から、インスリン カートリッジ製剤とペン型注入器を間違えた組み合わせで使用したことにより、低血糖や高血糖などの副作用が生じたとの注意喚起が発信されている\*。  
\*インスリン カートリッジ製剤とインスリン ペン型注入器の組み合わせ指導について (参照2024年5月27日)
- インスリン製剤は生命に直結する薬剤である。インスリン カートリッジ製剤とペン型注入器は、標準規格を取り決め、どの製薬企業のカートリッジ製剤とペン型注入器を組み合わせても安全に使用できるようにすることが望まれる。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話: 03-5217-0281 (直通) FAX: 03-5217-0253 (直通)  
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の読量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2024年  
No.7  
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

## 名称類似薬の処方間違い



### 事例

#### 【事例の詳細】

当薬局が担当している施設へ入所した患者の処方箋を初めて応需した。処方箋にはグルコン酸カルシウム水和物が記載されていた。グルコン酸カルシウム水和物は処方元の医療機関から処方されることがない薬剤であり、処方頻度が高いグルコン酸カリウムと名称が類似していることから、薬剤師は処方間違いを疑った。患者が入所している施設に確認を行ったところ、患者の処方履歴から、以前よりグルコンサンK細粒4mEq/gが処方されていたことがわかった。薬剤師が処方医に疑義照会を行ったところ、グルコン酸カルシウム水和物はグルコンサンK細粒4mEq/gに変更となった。

#### 【推定される要因】

患者に薬剤を処方する医療機関が変更になっていた。処方医は、前医の処方内容を転記する際に、入力を間違えた可能性がある。

#### 【薬局での取り組み】

「グルコンサン」から始まる薬剤には「カリウム」と「カルシウム」の2種類があることを薬局内で周知する。今回の薬剤の組み合わせの他にも、名称が類似する薬剤は多数あり、処方内容に違和感があった際には疑義照会を行う。



### その他の情報

商品名	カルチコール末 <sup>®</sup>	グルコンサンK細粒4mEq/g
有効成分	グルコン酸カルシウム水和物	グルコン酸カリウム
効能又は効果	低カルシウム血症に起因する下記症状の改善 テタニー、テタニー関連症状 小児脂質便におけるカルシウム補給	低カリウム状態時のカリウム補給
用法及び用量	グルコン酸カルシウム水和物として、通常成人1日1~5gを3回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	1回カリウム10mEq相当量 1日3~4回経口投与。症状により適宜増減する。

※経過措置満了日は2025年3月31日。  
(2024年5月27日現在)



### 事例のポイント

- 処方オーダーの際は、薬剤名の読み仮名の最初の3文字を入力し、検索された薬剤群から処方する薬剤を選択することが多い。グルコン酸カルシウム水和物とグルコン酸カリウムは、読み仮名の最初の7文字が一致しているため、処方入力の間違いが起きやすい組み合わせである。
- 本事例は、処方医が薬剤を間違えて選択した可能性があると考えた薬剤師が、疑義照会を行った事例である。処方する医師や医療機関が変更になる場合は、名称類似などによる処方間違いの可能性を考慮して、処方監査を行う必要がある。
- 処方する医師や医療機関が変更になった場合は、「薬剤サマリー」「退院時服薬情報提供書」「お薬手帳」「検査値」などの情報を医療機関、施設などと共有し、その情報をもとに処方監査を行うことが重要である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhcc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の読解を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2024年  
No.7  
事例3

疑義照会・処方医への情報提供

## 薬剤の組成・性状



### 事例

#### 【事例の詳細】

カムシア配合錠LD「ニプロ」1回1錠が処方されていた患者の血圧が低くなったため、今回から1回0.5錠に変更された。カムシア配合錠LD「ニプロ」は割線がない配合錠であるため、薬剤師が製薬企業に確認したところ、半錠に分割した場合の有効成分の均一性は保証できないとの回答を受けた。処方医と検討した結果、カムシア配合錠LD「ニプロ」1回0.5錠はプロプレス錠4 1回1錠、アムロジピン錠2.5mg 1回0.5錠に変更になった。

#### 【推定される要因】

配合錠を分割した場合の有効成分の均一性について、処方医の認識が不足していたと思われる。

#### 【薬局での取り組み】

薬剤師は薬剤に関する情報を収集し、薬剤ごとの特性を理解したうえで、処方医と情報を共有する。



### その他の情報

カムシア配合錠LD「ニプロ」の添付文書 2023年11月改訂(第1版)(一部抜粋)

#### 3. 組成・性状

##### 3.1 組成

有効成分	1錠中 日本薬局方 カンデサルタン シレキセチル 8mg
	1錠中 日本薬局方 アムロジピンベシル酸塩 3.47mg (アムロジピンとして 2.5mg)

##### 3.2 製剤の性状

性状	淡黄色の素錠
----	--------



### 事例のポイント

- 一般的に、配合錠は1錠中に有効成分が均等に分布されておらず、分割すると各々の有効成分の含量が不均等になるため、原則として分割は不可である。
- 配合錠の半錠・粉碎の可否について、添付文書に記載されている内容から判断することが難しい場合は、製薬企業から情報収集を行うなどして、製剤の特性を理解し、半錠・粉碎の可否について検討を行う必要がある。
- 本事業には、カムシア配合錠LD以外にも、セレスタミン配合錠、トラベルミン配合錠、トラムセット配合錠、ミコンビ配合錠AP/BP、レザルタス配合錠LD/HDなどの割線がない配合錠が半錠で処方されたため、疑義照会や処方医へ情報提供を行った事例が報告されている。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281 (直通) FAX：03-5217-0253 (直通)  
<https://www.yakkyoku-hiyari-jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の読量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



# 共有すべき事例

疑義照会・処方医への情報提供

## 同効薬の重複



### 事例

#### 【事例の詳細】

患者にエピナスチン塩酸塩錠20mg「トーワ」が処方された。患者から提示されたお薬手帳には医療機関Aから処方された薬剤のみが記載されていた。今回、患者からマイナ保険証が提示され、薬剤情報等の閲覧について同意が得られたため確認したところ、医療機関Bから同効薬のデザレックス錠5mgが処方されていた。患者から、お薬手帳を医療機関ごとに分けて複数所持していること、現在もデザレックス錠5mgを服用していることを聴取したため、処方医に疑義照会を行った結果、エピナスチン塩酸塩錠20mg「トーワ」は削除になった。

#### 【推定される要因】

患者は、お薬手帳を医療機関ごとに分けて複数所持していた。それぞれの医療機関では、他の医療機関から処方されている薬剤があることを把握できなかった。

#### 【薬局での取り組み】

当薬局を利用する患者に対し、お薬手帳の正しい活用方法を説明して周知する。マイナ保険証の活用により複数の医療機関から処方された薬剤を把握することができるため、薬局でも患者にマイナンバーカードを健康保険証として利用するよう促していく。



### その他の情報

販売名	エピナスチン塩酸塩錠10mg/ 20mg「トーワ」	デザレックス錠5mg
有効成分	エピナスチン塩酸塩	デスロラタジン
薬効分類	アレルギー性疾患治療薬	アレルギー性疾患治療薬

(2024年7月1日現在)



### 事例のポイント

- お薬手帳を有効活用するには、患者が服用・使用している薬剤のすべてが一つのお薬手帳に集約されていることが前提である。薬剤師は患者に、お薬手帳の正しい活用方法やその重要性を説明し、患者が適切に使用・管理できるよう平素より関わり続ける必要がある。
- 2024年12月2日に従来の健康保険証の発行が終了するため、マイナンバーカードを健康保険証として利用登録したマイナ保険証の利用が促進されている。患者が医療機関や薬局でマイナ保険証を提示し、情報の提供に同意すれば、過去に処方された薬剤や特定健診の結果などの情報を医師や薬剤師などと共有することができる。
- 適切に処方監査を行うためには、かかりつけ薬剤師・薬局として患者の服薬情報を一元的・継続的に管理する必要があるが、現状では患者が複数の薬局を利用することもあり、処方されている薬剤をすべて把握することが難しい場合もある。お薬手帳やマイナ保険証などのツール、医療情報連携ネットワークを活用し、患者の服薬情報を収集することが重要である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の責を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



# 共有すべき事例

疑義照会・処方医への情報提供

## 同効薬の重複



### 事例

#### 【事例の詳細】

患者は医療機関で6ヶ月に1回ブラリア皮下注60mgシリンジを投与され、処方されたデノタスチュアブル配合錠を毎日服用していた。ブラリア皮下注60mgシリンジの投与が終了し、今回、エディロールカプセル0.75μgが初めて処方された。薬剤師は患者に残薬を確認し、デノタスチュアブル配合錠が残っていることを聴取した。処方医からデノタスチュアブル配合錠の服用中止の指示がなかったため、患者はデノタスチュアブル配合錠とエディロールカプセル0.75μgの両方を服用すると思い込んでいた。薬剤師が処方医に2剤の併用について疑義照会した結果、デノタスチュアブル配合錠の服用が終了した後にエディロールカプセル0.75μgの服用を開始するよう指示があり、デノタスチュアブル配合錠の残数を考慮した処方日数に変更になった。

#### 【推定される要因】

処方医は、デノタスチュアブル配合錠が残っていることを把握していなかった可能性がある。

#### 【薬局での取り組み】

ブラリア皮下注60mgシリンジの投与開始時や終了時には、ビタミンD製剤やカルシウム製剤の処方・服用状況を確認する。薬剤服用歴等に治療計画を入力し、薬剤師間で情報を共有する。



### その他の情報

#### デノタスチュアブル配合錠の添付文書 2023年4月改訂（第1版）（一部抜粋）

##### 3.組成・性状

##### 3.1 組成

有効成分	1錠中：沈降炭酸カルシウム（日局）762.5mg（カルシウムとして305mg） コレカルシフェロール（日局）0.005mg（200IU） 炭酸マグネシウム（日局）59.2mg（マグネシウムとして15mg）
------	--

##### 10.相互作用

##### 10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ビタミンD及びその誘導体 アルファカルシドール、カルシトリオール、 エルデカルシトール等	高カルシウム血症があらわれることがある。	相加作用

#### エディロールカプセル0.5μg/0.75μgの添付文書 2024年2月改訂（第4版）（一部抜粋）

##### 3.組成・性状

##### 3.1 組成

有効成分 1カプセル中 エルデカルシトール0.5μg/0.75μg



### 事例のポイント

- 本事例は、活性型ビタミンD<sub>3</sub>製剤が処方された際、天然型ビタミンD<sub>3</sub>を含むデノタスチュアブル配合錠の残薬があることを把握した薬剤師が処方医に情報提供し、同効薬の重複を避けることができた事例である。
  - 患者が継続して服用している薬剤が変更・中止になった際、薬剤師は、薬剤の成分、処方目的、変更・中止の理由、今まで服用していた薬剤の残薬数を把握したうえで、残薬がある場合はいつまで服用するのかなどを処方医に確認し、処方医の意図に沿った指導を行う必要がある。
  - デノタスチュアブル配合錠は、ブラリア皮下注60mgシリンジなどのRANKL阻害薬の投与に伴う低カルシウム血症の治療および予防のため処方される薬剤である。ブラリア皮下注60mgシリンジの投与中止後、デノタスチュアブル配合錠の補充継続期間については明確な基準は示されておらず、個々の患者の血清補正カルシウム値等を考慮し、最終的には医師の判断により決定される。薬剤師は経過を観察し、服薬フォローアップを行うことが重要である。
- <参考>「ブラリア投与中止後、デノタス（カルシウムとビタミンD）の補充はいつまで続ければよいですか？」  
第一三共MedicalCommunity医療関係者向けサイト（参照2024年7月1日）



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhcc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



# 共有すべき事例

疑義照会・処方医への情報提供

## 病態禁忌



### 事例

#### 【事例の詳細】

eGFRが9mL/min/1.73m<sup>2</sup>に低下した患者が歯科診療所を受診し、ロキソニン錠60mgとフロモックス錠100mgがそれぞれ通常の1日量で処方された。ロキソニン錠60mgは重篤な腎機能障害のある患者には禁忌であり、フロモックス錠100mgは高度の腎障害のある患者には投与量を減らすか、投与間隔をあけて使用することが添付文書に記載されている。処方した歯科医師に患者のeGFR値と薬剤情報を伝えて疑義照会を行った結果、ロキソニン錠60mgはカロナール錠200へ、フロモックス錠100mgはマクロライド系抗菌薬へ変更になった。

#### 【推定される要因】

歯科医師が患者の血液検査の結果を把握していなかったこと、患者が歯科医師に腎機能が低下していることを伝えていなかったことが要因であると考えられる。

#### 【薬局での取り組み】

当薬局では平素より、患者から入手した血液検査の結果を電子薬歴システムに記録している。さらに、腎機能や肝機能が低下している患者の場合は、電子薬歴システムの特記事項欄に記載し、注意喚起を行っている。



### その他の情報

**ロキソニン錠60mg/細粒10%の添付文書** 2022年10月改訂（第2版）（一部抜粋）

- 2.禁忌（次の患者には投与しないこと）
- 2.4 重篤な腎機能障害のある患者

**フロモックス錠75mg/100mgの添付文書** 2024年8月改訂（第3版）（一部抜粋）

- 9.特定の背景を有する患者に関する注意
  - 9.2 腎機能障害患者
    - 9.2.1 腎不全又は高度の腎障害（クレアチンクリアランス 40mL/min以下）のある患者
- 投与量を減らすか、投与間隔をあけて使用すること。血中濃度が持続する。



### 事例のポイント

- 薬剤師が、患者の腎機能が低下していることを把握・記録していたことで適切に処方監査を行い、疑義照会を行った事例である。
- 歯科で処方されることが多い非ステロイド性鎮痛・抗炎症・解熱薬や抗菌薬には、腎機能が低下した患者に注意が必要な薬剤があることに留意し、患者の病態や臨床検査値などを把握したうえで処方監査を行い、必要に応じて代替薬の提案を行うことが重要である。
- 本事業を運営する医療事故防止事業部では、歯科に特化した報告システムを整備して歯科ヒヤリ・ハット事例収集等事業を開始し、2023年10月より歯科診療所の参加登録と事例報告を受け付けている。
- 本事業は、医療事故情報収集等事業や歯科ヒヤリ・ハット事例収集等事業と連携し、医療安全の推進に取り組んでいる。歯科領域に関連する事例の報告もお願いしたい。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.c.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。

### 3. 今月のトピックス



## “新しく”、“正しい” 医薬品等情報の入手と提供 (第30回) 予防接種・ワクチンのことを相談されたら～健康をサポート～ ～最新の医薬品・医療情報を電子的に入手、活用する～

日頃、かかりつけ薬剤師として、医薬品情報の提供はもとより、地域住民の健康維持増進を支援する薬局<sup>1)2)</sup>として、健康サポートをされているかと思えます。そんな中、予防接種についても新型コロナウイルス感染症拡大時や、行政から送られてきた定期接種の案内を交えたご相談も、しばしばあるのではないのでしょうか。そこで、今回は、予防接種を取り上げ、提供情報ソースやそのポイントについてご紹介します。

- 1) 厚生労働省：健康サポート薬局のあり方について 健康情報拠点薬局（仮称）のあり方に関する検討会，2015年9月24日，<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11121000-Iyakushokuhinkyoku-Soumuka/matome.pdf>，2024年8月5日参照
- 2) 厚生労働省 医薬・生活衛生局 総務課：ビジョン実現のための具体的な政策 健康サポート薬局について．p9，2016年2月26日，<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11121000-Iyakushokuhinkyoku-Soumuka/0000114049.pdf>，2024年8月5日参照

### 1. 予防接種・ワクチンに関する情報ソースについて

患者さんに情報提供するにあたって、いつも扱っている医薬品情報と同様に、まずは、現時点での最新情報を電子的に入手することがポイントです。電子添文から得られる適応症、対象者、用法用量、効果、副反応等の情報等、いつ、だれが、何のために接種するのかによって、必要な情報が異なります。それに加え、予防接種では費用負担も、患者さんにとっては大事な情報です。そこで、その予防接種が定期接種か任意接種なのか、定期接種の場合、対象の年齢・性別等や、居住自治体により費用補助等が異なりますので、合わせて情報を入手し提供します。

目的別に次のような情報ソースを参照できます。動画や一覧表、Q&A形式などで、わかりやすく情報提供されています（表1）。

表1 予防接種・ワクチンに関する各種目的別情報ソース

	提供機関	内容・リンク先 URL	
総論・制度	厚生労働省	予防接種情報 <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/kekkaku-kansenshou/yobou-sesshu/index.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/kekkaku-kansenshou/yobou-sesshu/index.html</a>	
疾患・病態	国立感染症研究所	予防接種情報 <a href="https://www.niid.go.jp/niid/ja/vaccine-j.html">https://www.niid.go.jp/niid/ja/vaccine-j.html</a>	
総論・各論	一般社団法人 日本ワクチン産業協会	・各種予防接種について <a href="http://www.wakutin.or.jp/index.html">http://www.wakutin.or.jp/index.html</a>	
		・予防接種に関する Q&A 集 <a href="http://www.wakutin.or.jp/medical/index.html">http://www.wakutin.or.jp/medical/index.html</a>	
小児	日本小児科学会	予防接種・感染症情報 <a href="https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=93">https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=93</a>	
海外渡航者	厚生労働省検疫所	FORTH 海外で健康に過ごすための感染症情報 <a href="https://www.forth.go.jp/index.html">https://www.forth.go.jp/index.html</a>	
	外務省	地域別 ワクチン接種施設 <a href="https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/vaccine/index.html">https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/vaccine/index.html</a>	
地域情報	ひろしま CDC	予防接種 <a href="https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/list1618-6207.html">https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/list1618-6207.html</a>	
	各市町村	当該市町村の Web サイトで「予防接種」等で、費用補助について検索	



◎言葉の説明

「ワクチン」と「予防接種」

予防接種とは、病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くするために、ワクチンを接種することをいいます。

予防接種情報 > よくある質問 (厚生労働省) より引用

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/kihonteki\\_keikaku/index\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/kihonteki_keikaku/index_00001.html)

「定期接種」と「任意接種」って何?

予防接種には「定期接種 (A類疾病・B類疾病)」と「任意接種」があります。

「定期接種 (A類疾病)」は対象者が予防接種を受けるよう努めなければならないとされており、対象疾患としては麻疹、風疹、百日せき、ポリオなどがあります。いずれも発病すると重症になったり、後遺症を残したりする可能性の高い病気です。インフルエンザの予防接種は「定期接種」でもB類疾病に分類されており予防接種の努力義務はありません。

「任意接種」はおたふくかぜやA型肝炎などの予防接種で、病気の流行状況などにより「受けた方がよい」というものです。しかし、決して「受ける必要がないワクチン」という意味ではありません。任意接種であっても、重い後遺症を残したり、死亡の危険性もある病気のためのワクチンであることには変わりありません。

接種費用はどうなっているの?

「定期接種」は国が接種を定めた時期 (年齢) なら、公費補助を受けて予防接種が受けられます。ただし、補助を受けられる時期や金額は地方自治体に任されているので、地域によって補助を受けられる時期が異なったり、多少実費がかかることもあります。

「任意接種」は希望者だけが接種するので、自費で受けることになっていますが、地域によって補助を受けられる場合があります。どの任意接種のワクチンに公費補助があるかは、お住まいの自治体にご確認ください。

よ〜くわかる予防接種 (一般社団法人 日本ワクチン産業協会) より引用

<http://www.wakutin.or.jp/data/mother/vaccination4.html>

2. 今、注目したい予防接種と情報ソースについて

1) HPVワクチン

■子宮頸がんの原因、疫学について

ヒトパピローマウイルス (HPV) に感染したからといって必ずがんになるわけではありません。良性疾患である疣贅 (ゆうぜい: いぼ) などから悪性疾患である子宮頸がん等の原因となることが知られ、遺伝子型との関連が知られています (表2)。子宮頸がんでは、HPV16, 18型の遺伝子型が関わっていると報告されています。

子宮頸がんの発症は、HPVの持続的な感染が関与しています。日本では、年間約1.1万人が子宮頸がんと診断され、約3,000人が子宮頸がんにより死亡し増加傾向にあります。近年では30~50歳代での罹患率が高く、40~50歳代での死亡率が増加しています。一方、欧米等においては長期的に減少しており、細胞診や子宮頸がん検診の普及がこれに寄与しています。また、オーストラリア、北欧、北米ではHPVワクチンプログラムが導入され、ワクチン接種世代において子宮頸部前がん病変の減少が確認されています。

■男性のHPV関連疾患について

HPVは男性においても、感染とがんのリスクが注目されています。HPVとの関連がある中咽頭部周辺のがん (舌根、口蓋、扁桃、中咽頭) の内、中咽頭がんは、男性に多い傾向があり、男女ともに死亡率が増加傾向にあります。

表2 HPV 関連疾患と遺伝子型

部位	HPV 関連疾患	HPV 遺伝子型*
皮膚	疣贅	1, 2, 3, 4, 7, 10, 26, 27, 28, 29, 41, 48, 50, 57, 60, 63, 65, 75, 76, 77, 88, 95
	疣贅状表皮発育異常	5, 8, 9, 12, 14, 15, 17, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 36, 37, 38, 46, 47, 49, 75, 76, 80, 92, 93, 96
咽頭口腔部, 喉頭, 口腔	頭頸部がん	主に16 (頻度は低いが高リスク型も含む)
口腔	FEH (局所上皮過形成)	13, 32
	focal epithelial hyperplasia	
咽頭	喉頭乳頭腫	6, 11
	尖圭コンジローマ (陰部・生殖器疣贅) (低リスク型)	6, 11
肛門性器周辺	上皮内腫瘍性病変 (低リスク型)	40, 42, 43, 44, 53, 54, 61, 72, 73, 81
	上皮内腫瘍性病変と子宮頸がん (高リスク型)	16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 68, 73, 82 (26, 53, 66)

\* HPV ワクチンに含まれる遺伝子型を下線・網掛けで示す。子宮頸がんとその他のヒトパピローマウイルス (HPV) 関連がんの予防ファクトシート 2023から引用

■HPVワクチンについて

日本では、3種類のワクチンが販売されています（表3）。現在、子宮頸がんの一次予防として、定期接種の対象者\*<sup>1</sup>は公費で受けられます。また、定期接種の対象外であっても、任意接種できます。

2010年11月から子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業として接種が始まり、2013年4月からは予防接種法に基づく定期接種となりましたが、予防接種ストレス関連反応\*<sup>2</sup>等接種後の不調の訴えが報告され、2013年6月から積極的な勧奨を一次的に差し控える措置（＝「積極的勧奨の差し控え」）を取ってきました。その後、専門家の評価により「HPVワクチンの積極的勧奨を差し控えている状態を終了させることが妥当」とされ、2022年4月から、他の定期接種と同様に、個別の勧奨が行われています。

「積極的勧奨の差し控え」の期間に、HPVワクチンを接種しなかった人のために、現在、『キャッチアップ接種』を推進しています。対象者は、誕生日が1997年4月2日～2008年4月1日の女性です。本取り組みは今年度で終了予定のため、接種1回目は本年9月までに接種する必要があります。各自治体から対象者に対しては通知が郵送されていますので、ご相談に応じてあげてください。

さて、男性に対してのHPVワクチン接種については、海外ではHPV起因の中咽頭がん、陰茎がんの予防にも有効とする報告もあり、肛門がんや男性の尖圭コンジローマの適応が追加されたことにより、今後は男性への接種に対する公費助成についても議論が始まっています。

\* 1：小学校6年生～高校1年生相当の女性。





\* 2：ワクチンの種類には関係なく、ワクチン接種への不安や注射針への恐怖や痛み等により、過呼吸やめまい、痛み、不随意運動、しびれ、手足の動かしにくさなどを起こす可能性があることが知られている。

表3 HPVワクチンの種類一覧表

製品名	対象		効能・効果	用法・用量	価数 遺伝子型
	女性	男性			
サーバリックス	10歳以上	—	ヒトパピローマウイルス（HPV）16型及び18型感染に起因する子宮頸癌（扁平上皮癌、腺癌）及びその前駆病変（子宮頸部上皮内腫瘍（CIN）2及び3）の予防	10歳以上の女性に、通常、1回0.5mLを0、1、6ヵ月後に3回、上腕の三角筋部に筋肉内接種する。	2価 16,18
ガーダシル* 水性懸濁筋注 シリンジ	9歳以上	9歳以上	ヒトパピローマウイルス6、11、16及び18型の感染に起因する以下の疾患の予防 ○子宮頸癌（扁平上皮癌及び腺癌）及びその前駆病変（子宮頸部上皮内腫瘍（CIN）1、2及び3並びに上皮内腺癌（AIS）） ○外陰上皮内腫瘍（VIN）1、2及び3並びに腔上皮内腫瘍（VaIN）1、2及び3 ○肛門癌（扁平上皮癌）及びその前駆病変（肛門上皮内腫瘍（AIN）1、2及び3） ○尖圭コンジローマ	9歳以上の者に、1回0.5mLを合計3回、筋肉内に注射する。通常、2回目は初回接種の2ヵ月後、3回目は6ヵ月後に同様の用法で接種する。	4価 6,11,16,18
シルガード*9 水性懸濁筋注 シリンジ	9歳以上	—	ヒトパピローマウイルス6、11、16、18、31、33、45、52及び58型の感染に起因する以下の疾患の予防 ○子宮頸癌（扁平上皮癌及び腺癌）及びその前駆病変（子宮頸部上皮内腫瘍（CIN）1、2及び3並びに上皮内腺癌（AIS）） ○外陰上皮内腫瘍（VIN）1、2及び3並びに腔上皮内腫瘍（VaIN）1、2及び3 ○尖圭コンジローマ	9歳以上の女性に、1回0.5mLを合計3回、筋肉内に注射する。通常、2回目は初回接種の2ヵ月後、3回目は6ヵ月後に同様の用法で接種する。 9歳以上15歳未満の女性は、初回接種から6～12ヵ月の間隔を置いた合計2回の接種とすることができる。	9価 6,11,16, 18,31,33, 45,52,58

各製品電子添文から引用

表4 ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染及び、HPV ワクチンに関する情報ソース

	提供機関	内容・リンク先 URL	
HPVとがん	国立がん研究センター がん対策研究所	子宮頸がんその他のヒトパピローマウイルス (HPV) 関連がんの予防 ファクトシート2023 <a href="https://www.ncc.go.jp/html/icc/hpvcancer/index.html">https://www.ncc.go.jp/html/icc/hpvcancer/index.html</a>	
子宮頸がん	国立がん研究センター	がん情報サービス   子宮頸がん <a href="https://ganjoho.jp/public/cancer/cervix_uteri/index.html">https://ganjoho.jp/public/cancer/cervix_uteri/index.html</a>	
子宮頸がん	日本産科婦人科学会	産科・婦人科の病気> 子宮頸がん <a href="https://www.jsog.or.jp/citizen/5713/">https://www.jsog.or.jp/citizen/5713/</a>	
子宮頸がん	がん研有明病院	がんに関する情報 子宮頸部異形成の DNA 診断 <a href="https://www.jfcr.or.jp/hospital/cancer/type/womb_hpv.html">https://www.jfcr.or.jp/hospital/cancer/type/womb_hpv.html</a>	
HPV感染症	厚生労働省	ヒトパピローマウイルス感染症とは <a href="https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/hpv/index.html">https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/hpv/index.html</a>  ヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチンの接種を逃した方へ ～キャッチアップ接種のご案内～ <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv_catch-up-vaccination.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv_catch-up-vaccination.html</a>	 
HPV ワクチン	厚生労働省	HPV ワクチンに関する Q&A <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv_qa.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv_qa.html</a>	
HPV ワクチン	広島県   ひろしま CDC	子宮頸がん予防ワクチン (HPV ワクチン) について <a href="https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/hpv.html">https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/hpv.html</a>	

2) RSウイルスワクチン

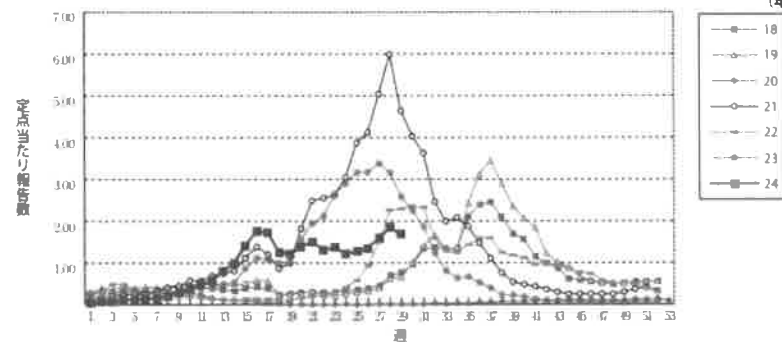
■RSウイルス感染症の疫学、病態

RSウイルス感染症 (respiratory syncytial virus infection) は、RSウイルスの感染による呼吸器の感染症で、年齢を問わず、生涯何度も感染と発病を繰り返します。生後数週から数カ月の期間に、重症な症状を引き起こすことから、低出生体重児、心肺系に基礎疾患がある場合、免疫不全のある場合等の重症化リスクが高い乳幼児期において注意が必要な感染症として知られています。加えて、高齢者においても重症化リスクがある感染症です。気管支炎や肺炎等の重症感染症を引き起こすことや、慢性閉塞性肺疾患 (COPD) やうっ血性心不全等の併存疾患を有する場合には、RSウイルス疾患の重症化リスクが高く、入院や死亡といった重篤な転帰に至ることもあります (RSウイルスワクチン アプリスポ®筋注用 インタビューフォーム、アプリスポ筋注用審査報告書 (2024年03月28日) より引用)。従って、乳幼児だけでなく、高齢者においても注意が必要な感染症です。

流行ピークは、従来冬場だったのですが、近年は秋や夏でもみられ、今年は春から流行しはじめています (図1)。

図1 RSウイルス感染症 定点当たりの報告数

RSウイルス感染症 ※2018年第9週より定点当たり報告数の表示に変更されました。(年)



週一月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12  
対 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月  
應\* 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

\* 2024年報告週対 表 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/calendar.html>

Infectious Diseases Weekly Report Japan 2024年第29週 (7月15日~7月21日) : 通巻第26巻 第29号  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr-dl/2024.html>

■RSウイルス感染症の予防：「予防薬」と「ワクチン」（表5）

まず、RSウイルス感染症の「予防薬」は、現在、モノクローナル抗体製剤であるシナジス<sup>®</sup>筋注液、及びバイフォータス<sup>®</sup>筋注が承認され、販売されています。いずれも、ハイリスクな背景を持った乳幼児における重篤な下気道疾患の発症抑制に適応症を有し、入院リスクや重症化リスクの減少について臨床報告されています<sup>3)</sup>。

次に、RSウイルス感染症の「ワクチン」は、現在、2製剤が販売されています。60歳以上のRSウイルス感染症の予防に加えて、妊婦（妊娠24～36週）に接種することで母子免疫をつけ新生児および乳児におけるRSウイルスを原因とする下気道疾患の予防に対する効能・効果を有する製剤があります（表5）。

3) Assad Z, et al.: Nirsevimab and Hospitalization for RSV Bronchiolitis, N Engl J Med. 2024; 391: 144-154.





表5 RSウイルス感染症に対する予防 「抗体製剤」及び、「ワクチン」一覧表

製品名	一般名	対象		効能・効果	用法・用量	薬価
		乳幼児	高齢者			
シナジス <sup>®</sup> 筋注液  2012年8月承認	パリビズマブ	早産児 ハイリスク乳幼児		下記の新生児、乳児および幼児におけるRSウイルス（Respiratory Syncytial Virus）感染による重篤な下気道疾患の発症抑制 RSウイルス感染流行初期において ○在胎期間28週以下の早産で、12ヵ月齢以下の新生児および乳児 ○在胎期間29週～35週の早産で、6ヵ月齢以下の新生児および乳児 ○過去6ヵ月以内に気管支肺異形成症（BPD）の治療を受けた24ヵ月齢以下の新生児、乳児および幼児 ○24ヵ月齢以下の血行動態に異常のある先天性心疾患（CHD）の新生児、乳児および幼児 ○24ヵ月齢以下の免疫不全を伴う新生児、乳児および幼児 ○24ヵ月齢以下のダウン症候群の新生児、乳児および幼児 ○24ヵ月齢以下の肺低形成を伴う新生児、乳児および幼児 ○24ヵ月齢以下の気道狭窄を伴う新生児、乳児および幼児 ○24ヵ月齢以下の先天性食道閉鎖症の新生児、乳児および幼児 ○24ヵ月齢以下の先天代謝異常症の新生児、乳児および幼児 ○24ヵ月齢以下の神経筋疾患の新生児、乳児および幼児	パリビズマブ（遺伝子組換え）として体重1kgあたり15mgをRSウイルス流行期を通して月1回筋肉内に投与する。なお、注射量が1mLを超える場合には分割して投与する。	50mg 51,725円 100mg 102,099円
		早産児 ハイリスク乳幼児  上記以外の新生児／乳児	1. 生後初回又は2回目のRSウイルス（Respiratory Syncytial Virus）感染流行期の重篤なRSウイルス感染症のリスクを有する新生児、乳児及び幼児における、RSウイルス感染による下気道疾患の発症抑制 2. 生後初回のRSウイルス感染流行期の1.以外のすべての新生児及び乳児におけるRSウイルス感染による下気道疾患の予防			

製品名	対象		効能・効果	用法・用量
	乳幼児	高齢者		
アプリスボ <sup>®</sup> 筋注用  2024年1月承認	妊婦による母子免疫	60歳以上	○妊婦への能動免疫による新生児及び乳児におけるRSウイルスを原因とする下気道疾患の予防 ○60歳以上の者におけるRSウイルスによる感染症の予防	〈妊婦への能動免疫による新生児及び乳児におけるRSウイルスを原因とする下気道疾患の予防〉 抗原製剤を専用溶解用液全量で溶解後、妊娠24～36週の妊婦に、1回0.5mLを筋肉内に接種する。 〈60歳以上の者におけるRSウイルスによる感染症の予防〉 抗原製剤を専用溶解用液全量で溶解後、1回0.5mLを筋肉内に接種する。
アレックスビー筋注用  2023年9月承認	—	60歳以上	RSウイルスによる感染症の予防	抗原製剤を専用溶解用液全量で溶解し、60歳以上の者に1回0.5mLを筋肉内に接種する。

各製品電子添文から引用

表6 RSウイルス感染及び、RS ワクチンに関する情報ソース

提供機関	内容・リンク先 URL	
疾患・病態・ 治療	国立感染症研究所 RSウイルス感染症とは <a href="https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/317-rs-intro.html">https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/317-rs-intro.html</a>	
Q&A 方式	厚生労働省 RSウイルス感染症 Q&A (令和6年5月31日改訂) <a href="https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html">https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html</a>	
母子免疫に ついて	日本小児科学会 RSウイルス母子免疫ワクチンに関する考え方 <a href="https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20240221_RWvirus_kangae.pdf">https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20240221_RWvirus_kangae.pdf</a> <a href="https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=559">https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=559</a>	 

## 最後に

新型コロナウイルス感染症拡大時には、罹患者やワクチン接種者で帯状疱疹発症リスクが増加するとの報告がありました<sup>4)5)</sup>。1～3歳未満児では、2014年から水痘ワクチンの定期接種が開始され、それ以降は、患者数が激減しています。成人に対する帯状疱疹ワクチンの定期接種化について議論がなされ、来年度の定期接種の導入について、議論が進んでいます<sup>6)</sup>。

新型コロナワクチンは、10月1日から65歳以上および60～65歳で基礎疾患などのリスクの高い方には定期接種が始まります。

本号の「お薬相談電話事例集No.149」でご紹介する「肺炎球菌ワクチン」についても、高齢者への定期接種だけでなく、小児に対する従来の13価、15価に加えて、20価のワクチンが、同様に10月1日から定期接種が始まる予定です<sup>7)8)</sup>。これら定期接種は、自治体から費用補助があることで、接種のハードルが下がります。また任意接種であっても補助を受けられることもあり、各自治体のWebサイト等を随時参照し、合わせて情報提供することで患者さんのメリットにつながられます。

薬剤師は、予防接種に関する情報提供という形で予防の観点から貢献できるように、今回ご紹介したサイトなどを参照されて、費用補助含む最新情報をupdateし、健康サポートにご支援頂ければと存じます。

4) Wan EYF, et al: Herpes zoster related hospitalization after inactivated (CoronaVac) and mRNA (BNT162b2) SARS-CoV-2 vaccination: A self-controlled case series and nested case-control study. Lancet Reg Health West Pac 2022; 21: 100393

5) Bhavsar A, et al: Increased Risk of Herpes Zoster in Adults ≥ 50 Years Old Diagnosed With COVID-19 in the United States. Open Forum Infectious Diseases. 2022; 9: ofac118,

6) 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 予防接種基本方針部会 ワクチン評価に関する小委員会 (令和6年6月20日) 第26回厚生科学審議会 (予防接種・ワクチン分科会 予防接種基本方針部会 ワクチン評価に関する小委員会)  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_40826.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_40826.html)

7) 第61回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 予防接種基本方針部会 資料 (令和6年7月18日)  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_41548.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_41548.html)

8) 第57回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 資料 資料 (令和6年7月31日)  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_41951.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_41951.html)

## ご案内

薬事情報センター Web サイトでは、最新の医薬情報等の入手のために「お役立ちリンク集」をご用意しております。今回のようなテーマの情報入手ツールとしても、是非、お役立て下さい。

〈掲載場所〉：薬事情報センター Web サイト > お役立ちリンク集 <https://hiroyaku.jp/di/links/>



〈お役立ちリンク集サイト一覧〉

★今回使用したサイト

大分類	リンクされている情報
★ 感染症情報	<a href="#">広島県感染症・疾病管理センター(ひろしま CDC)</a> <a href="#">海外での感染症予防、他(海外へ渡航される皆様へ)</a> (厚生労働省) <a href="#">感染症関連情報(国立感染症研究所)</a> <a href="#">予防接種に関する情報(日本ワクチン産業協会)</a> 等
医薬品適正使用情報	医薬品の安全性関連、妊娠・授乳と薬情報
プレアボイド関連サイト	薬局ヒヤリ・ハット事例、医療事故情報事例
★ 医薬品情報データベース	<a href="#">医療用医薬品</a> / <a href="#">一般用医薬品</a> 情報検索、承認情報、新薬情報、保険適応、 <a href="#">適応外保険適用</a> 、セルフメディケーション、 <a href="#">文献検索 (J-STAGE 等)</a>
★ 医薬品関連サイト	<a href="#">厚生労働省</a> 、 <a href="#">PMDA</a> 、 <a href="#">製薬協</a> 、 <a href="#">日薬連</a> 、 <a href="#">日漢協</a> 、 <a href="#">PhRMA</a> 、 <a href="#">ジェネリック製薬協</a>
医療関連サイト	各種疾患病態治療に係る情報、Minds <a href="#">ガイドラインライブラリ</a>
★ もっと知りたいお薬のこと	県民向けにわかりやすい内容で、患者説明時に活用できる 薬のしおり、セルフメディケーション、健康食品、健康情報、 <a href="#">海外渡航時の医薬品の携帯持込等</a> 、 <a href="#">海外渡航時感染症</a>
医療相談・医療機関検索	県民向けに相談先を紹介 <a href="#">医療安全支援センター</a> 、心の電話相談、 <a href="#">医療機関検索</a>
中毒情報検索	中毒発生時の一次対応情報 (中毒情報センター)、食中毒
アンチ・ドーピング関連	<a href="#">ドーピング禁止薬検索サイト</a> 、 <a href="#">薬剤師のためのガイドブック</a> 、 <a href="#">スポーツファーマシスト検索</a> 、 <a href="#">関係機関</a>

※本情報は、2024年 8 月 5 日現在の知見に基づいて執筆。

※各サイトは、2024年 8 月 5 日に確認。

## お薬相談電話 事例集 No.149

薬事情報センター

### 肺炎球菌ワクチンについて

**Q.** 62歳で、糖尿病の持病があるが、治療していてコントロールはされている。肺炎球菌ワクチンは接種した方が良いか？  
(60代男性)

**A.** 糖尿病の持病があると感染症のリスクが高くなりますし、感染症にかかると重症化しやすいと言われていいます。また、肺炎は、年齢が上がるごとに重症化リスクが高まります。肺炎を予防するためには、「毎日の感染対策」に加えて、「ワクチン接種」が有効です。一方で、ワクチンは健康体に接種することになりますし、副反応も報告されていますので、接種については糖尿病を診てくださっている主治医にご相談ください。

#### 【解説】

- 肺炎の原因となる細菌としては、肺炎球菌が最も多い。
- 現在、『定期接種』の対象者は以下の通り。ただし、すでに「ニューモバックス NP (23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン)」を接種したことがある方は対象外。  
対象者1：65歳の方（定期接種の機会は65歳の1年間）  
対象者2：60～64歳で、心臓や腎臓、呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活を極度に制限される方  
対象者3：60～64歳で、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方
- 定期接種となっているワクチンは「ニューモバックス NP (23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン)」のみ。その他のワクチンは定期接種としては使用できない。
- 過去に沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン (PCV13) 及び沈降15価肺炎球菌結合型ワクチン (PCV15) を接種したことがある場合でも、「ニューモバックス NP (23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン)」を定期接種として受けることは可能。
- 小児においても、肺炎球菌は、肺炎や中耳炎、髄膜炎などの重い合併症を起こすことがあるため、小児に対する『定期接種』が行われている。
- 現在、承認されている『肺炎球菌ワクチン』について、表に示す。

表 肺炎球菌ワクチンの種類一覧表

製品名 (製造販売元)	対象		価数	定期接種	効能・効果	用法用量
	小児	高齢者				
ニューモバックスNP シリンジ  (MSD)	○	○	23価	高齢者	2歳以上で肺炎球菌による重篤疾患に罹患する危険が高い次のような個人及び患者 ○脾摘患者における肺炎球菌による感染症の発症予防 ○肺炎球菌による感染症の予防 1) 鎌状赤血球疾患、あるいはその他の原因で脾機能不全である患者 2) 心・呼吸器の慢性疾患、腎不全、肝機能障害、糖尿病、慢性髄液漏等の基礎疾患のある患者 3) 高齢者 4) 免疫抑制作用を有する治療が予定されている者で治療開始まで少なくとも14日以上余裕のある患者	1回0.5mLを筋肉内又は皮下に注射する。
プレベナー13 水性懸濁注  (ファイザー)	○	○	13価	小児	○高齢者又は肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者 肺炎球菌(血清型1、3、4、5、6A、6B、7F、9V、14、18C、19A、19F及び23F)による感染症の予防 ○小児 肺炎球菌(血清型1、3、4、5、6A、6B、7F、9V、14、18C、19A、19F及び23F)による侵襲性感染症の予防	1回0.5mLを筋肉内に注射する。  ・初回免疫：通常、1回0.5mLずつを3回、いずれも27日間以上の間隔で皮下に注射する。 ・追加免疫：通常、1回0.5mLを1回、皮下に注射する。ただし、3回目接種から60日間以上の間隔をおく。
パクニューバンス 水性懸濁注シリンジ  (MSD)	○	○	15価	小児	○高齢者又は肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者における肺炎球菌(血清型1、3、4、5、6A、6B、7F、9V、14、18C、19A、19F、22F、23F及び33F)による感染症の予防 ○小児における肺炎球菌(血清型1、3、4、5、6A、6B、7F、9V、14、18C、19A、19F、22F、23F及び33F)による侵襲性感染症の予防	<高齢者又は肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる18歳以上の者における肺炎球菌による感染症の予防> 1回0.5mLを筋肉内に注射する。 <肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる18歳未満の者における肺炎球菌による感染症の予防> 1回0.5mLを皮下又は筋肉内に注射する。 ・初回免疫：通常、1回0.5mLずつを3回、いずれも27日間以上の間隔で皮下又は筋肉内に注射する。 ・追加免疫：通常、1回0.5mLを1回、皮下又は筋肉内に注射する。ただし、3回目接種から60日間以上の間隔をおく。
プレベナー20 水性懸濁注  (ファイザー)	○	—	20価	(小児 2024年10 月～予定)	小児における肺炎球菌(血清型1、3、4、5、6A、6B、7F、8、9V、10A、11A、12F、14、15B、18C、19A、19F、22F、23F及び33F)による侵襲性感染症の予防	・初回免疫：通常、1回0.5mLずつを3回、いずれも27日間以上の間隔で皮下又は筋肉内に注射する。 ・追加免疫：通常、3回目接種から60日間以上の間隔をおいて、0.5mLを1回皮下又は筋肉内に注射する。

【参考資料、サイト】

- 1) 厚生労働省：肺炎球菌感染症（高齢者），[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/haienkyukin/index\\_1.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/haienkyukin/index_1.html)，2024年8月1日参照
- 2) MSD：肺炎予防.jp，<https://www.haien-yobou.jp/>，2024年8月1日参照
- 3) 厚生労働省：肺炎球菌感染症（小児），[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/pneumococcus/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/pneumococcus/index.html)，2024年8月1日参照
- 4) 厚生労働省：小児用肺炎球菌ワクチンの変更に関するQ&A，[https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/qa\\_haienkyuukin.html](https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/qa_haienkyuukin.html)，2024年8月1日参照
- 5) 各製品添付文書，2024年8月1日参照

